可失記評判

七

へ遠13
1701
7

1701
7

1701
7

内閣文庫

可笑記評判巻第七

第一学文武福者多つらの事

世ていうの人は武ふの者にてもあるべきはずなれども世間にてやとかくつまらぬ人よりはづき学のもんとすれいわゆる公は早下しみいもつてどうくをへどきわかりとかくつで富貴の人はいきひいやうがまどもこれをてを人早下しもつてかつ半ばかり呂き賜貴福とえうなるはこれわざかとかくこれはまづこれ分ばかりみいこうこれ武ふの人もわるいこうなるとこれすきのやうなし人のなるはこうなるの人はこれはあるべきこれ武ふのやうなるはこれ用八幡と見るこれ有るこうり書わり日月わりとこれみなこれ武ふの人ありこうこれなるは武ふ早下しもつてかつ賜

貧福とうてしのふーしやわるうわで呼出へ概ね
まづたとうて氏貧人貧人こまたつよじうふうう
あうとうあのつくえ天のたとはうのひたくあをを
をしへかどーはたらばーはたらつくしみくく
呼出のしてうあつめしとはじたうるに早下しひつし
ぐるキ賤貧福とういたーへずいせうあをたうる級
そそーへのたとのへうーのひるまぐのーめくるあを
うわぐをみ氏して吾へとわうあていあうて
めくをみあつまきあ貧たんしたを富まうへいみを業
あくよかうり間嬉猛説ずは長じうを利ものはずを学
みううあのもうまずを方世うあーをしいをよみう
うぐめうりあをうーしいあかーてい級へう用ひ

うやはれ遊物をうを知行をとうり金氏をうくへ遊山
ううしきつをじや氏ぐうくうく貧氏をへようひ
人偏うたをはうりへうぐを貧氏をへようひ
氏地をりうしうを知りをうりをうりをを世
らにりの氏知うをうをすを鼻ずあて富まとをつ
ひ弟をたうりずずむつーきくをつぐ早下する知を
をくみつぐーキ賤貧福ともをうをうをうを貧
氏初迫切のずーををて地ぐずずず早下しをやをれを
れをを名の氏弟地をを鼻うを合立をわで富を
をつくを富をのうをでずを孔みを氏の知る知をうをを
知をはをうひををすはををとおりやをずはつぐ
これ西ををを知をうをりのりをを氏のを学古庶の

つくづくぞんじいんきくまくるあるくるをすてを
つぎのいこころをとりしかるこころをみこころごりでめりをきめ
くるをしりつく強てそこをつくんとよをいこころをとりつばを
とふこくくくめるるぐ

評曰いろいろ人ありこそ氏ちがこそ一宗のえこころ
のやまきづくいやきこころ人もこそ国平こ代のはず
国をゆこころおりれこころ方なりの中ひとりこのこころでふ
通をこれ人いつまく邪あるはありてこころの氏ぐそ
祐こみくこみ宗みわる人こともこそこころくはたをず選
指えもきん粗ものといかるぞ人のおは宗稽よころり
あるず半ひこそこそきづこそわぐ分こそこそこいまむを
きぐ同こも足ひずおけづきてこくゆり今のやは

まづきこの宗同しそこ氏わづは半一地りひを
ここずみこそこひ宗同せんとこみこもまづくこてい妙
ぐくこそ代くこ言治はやは代はくくくはつよるこく
物妙の河よわる人中こんこわくいい宗同ををはまいここん
相意やびい妙づくず貧金と利根と機根とひころ
ころつずこんぐーはりこもうのまづここはず言治
中こわくいいやくこここんは半一利根も貧金機根
も貧金わかがらはこうんかくくも品貧金ここんよ
て中はくと宗同い妙づきはぞと利口こくひ河西
こいくこ言也金ぐはりあわぐ治ここもこく
はくこはてこ氏もひこはくはくはこはこ今をこここ
宗同こんやよわまづこをまづきこはよづりてこ

[illegible]

角二琥珀磯石の事

[illegible]

[illegible]

評曰山陰ハ三國志ニ琥珀腐茅とかゝる。磯石曲針とかゝるもの[illegible]

[illegible]

新渡の唐人にて新ととぐめづらしきことを
人にてあるこころひとをばひとりのすき
ものとぞとぐめるとをうとみやすしゆ
仏経儒道なりとりいとんや市代
とや西とは世りぐとゆゑあるこまと
とりぞかんとあるぐとりぐづまず日ものとを
てとくむけんものづくあるをざりなど
第三の中世人は物乞乃半
むしわるくあるは物力をもつて仏ぬぐしまふ
仏とのくむるを半をとうるかの人の物力のとうを死
あるあるぐ生死ありとやのあいあるのるづるうわぐ
仏ぬも物ぐうず生死ともいとうぐして会会をのよ

ぬるとうけるをとうづけてわをとつぬとうてわとう
むるあるを半わるんとやこまをとぬ大悟とうすづるうあること
はの中世のんけうれあぐ百ぬ乃月日とうもわとうあ
形ん人とう

許曰是乾是仏是心悟仏とてあるは仏とのと
むづとずわう分をあるとうあるいとうとうあ会
ずぬとうぐとうとうあるぐて仏地とむすとをつくある
ま儀はぬるとうづくうるうず法仏はとうとあるう
とうあるぬ仏儀は好講よへぬとうず説はまあ
とあるを半あるれ百を半とうをとぐりづれこのあふ
賢礫は西ぬとう丹彩はま仏をやとうりまをぬ
物とを仏るれあんどとつく新ぬ市者ととうて

[illegible]不[illegible]所の行けば[illegible]遠は世界[illegible]
[illegible]して[illegible]ゆゑ[illegible]ても[illegible]ふ[illegible]分を佛性と
[illegible]のゆゑ[illegible]ふ[illegible]行けのちの[illegible]年[illegible]
魔[illegible]ものの[illegible]分[illegible]みよりも[illegible]
[illegible]何ぞ十方[illegible]行佛[illegible]ん生死[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]三界[illegible]
こ[illegible]方便[illegible]行[illegible]合[illegible]三界[illegible]
て実[illegible]て死[illegible]の[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]生死[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]財寶[illegible]
今[illegible]の半[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]ん[illegible]の[illegible]
[illegible]八十二相八十種[illegible]
[illegible]世界[illegible]
今[illegible]の半[illegible]
[illegible]
[illegible]十方世界[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃ち人くるず蒲田を乃安心の師匠として礎よ
るを一半ハそなわ一ハ師ぞや善師氏ものく母の面と
うい宗門ともわるとや
冷よ学文ものさ易腰乃ものの強つくハ食とうしく
時ハ乗和よ不せ一半ハ人一みつるぞずの一去よ
乃ものもうてつくぐ僧乃まハ用ものもうて
他人ものを一ずハ方よ安強うて命ものぐ一屋つる
ぎ心とものつくを一死せり生学のを一てんぐての
うんうりをうにして言うのんのハ言ぐうれぐ
学をもけるものくを方乃宮よ為すを老蜂乃珠
分乃職ものを摩の腸ハ命ハ然とうハ半一のを
ぬをを一概うーをぐーくるぐー

第七儒佛一乎に論合第
りーを人ハ人ものを人を世の佛を儒を霊足をく
紅をのをくりハ儒ハとを言ぐんとあ形て形乃をの
ものりをりをの乃ハ人ハ学ハ儒ハ
くくをハ紅ハを矣謂をハくて形乃のゆをのハと
号のものあぐをり論諍ををわぐをの為ぐをすす
とを人衝をくを一号のハをくくをくをくをふく
ぬ知ぐを乃形会をりを人を周のをくをハ重を葉じ
あくををとをの半くを為ぐくをくをハくを学ん
ものをぐををのをわをぐん言氏ををく紀ぐ為よ
尤儒を紅通ハぐわを由典形典異端わを不祥呂佛
を八佛他祖源を学」わくをものををを形の

仏乃ちと教ゆるとて仏法乃儒法と紙
面ばかりいろんやう儒ちハ世俗現在とまのび学て
ことさらに一貫乃心とてとりすぢ事のわしる
仏教乃仏法とあざそり誹謗ちん中いろべきこの別
ちんとう百姓ちくちハ三ちいとう
詩曰か典乃かとちくちふかりごのみ育
ものいろでう仏教ちをて儒とそーらんやを
仏法乃かのちくちんかの典とちくかの
乃ちるに対して仏法典とちふみ仏法と異端
とちつす第ちよりゆちわり端緒ちを吳端とちしり
いこかちくくちとちて仏と第ちこちは流して苦花
楊朱墨翟乃ちの法ちをあるしの仏法とも異端と

ちぐかちこちり孔子乃ちとさ仏法はいちぐちのちこ
ちくちく孔子とかとちくちくく仏教と吳端とかちん
第ちの乃ち仏法は老子乃ち虚無ちを仏教ちく人と時都まれ
ぢこちて吳端ちりこちゆちり第ちよちそを仏法と
いちやちこちり老子乃虚無ちを仏教ちを
も帝鬼乃教ちりこちて仏法の教とちかけちく
宮殿帝位乃ちのと後ちてうちを地二鬼とちぐ
第ちは何ぞ吳端とちぐちちんかちのいい仏法乃
中ちやちをちわぐちを鬼ちを野狐乃法と
いちやちり因果のちを地とちぐちこれ仏法の
吳端ちりと儒教ちこちをちちうちん俗ちちる
ちうぐちこの人教ちちくちを忠ちくちを仏

ゐ　神道和尚　ものゝ　わ　で　つ　ま　の　ろ　う　も
そ　ま　て　な　り　の　ち　に　は　と　矢　端　と　の　い　心　る　ま　え
よ　け　て　ま　す　ま　ち　ば　つ　み　儒　乃　ま　す　い　は　け　の　み　縁　よ
つ　ま　り　和　尊　空　乃　実　拝　い　一　ま　つ　く　数　す　る　和
儒　仏　ま　つ　く　一　は　ま　る　ま　す　一　つ　く　も　一　と　ま　な　学
え　乃　ま　と　わ　き　儒　仏　の　縁　い　ち　ま　は　く　わ　る　ま　せ　と　ろ
ま　ま　人　の　ち　で　さ　ま　而　ま　ち　は　ず　わ　ま　く　一　こ　ま　ま　人
ま　く　ま　ま　の　ま　わ　し　と　い　ま　す　れ　儒　の　ま　く
ま　り　で　仏　ま　で　は　ま　る　ま　で　せ　ま　く　ま　ま
で　ま　わ　で　儒　は　乃　ま　通　ま　く　ま　別　は　ま　ま　は
今　は　ま　人　ま　る　は　ま　ひ　ま　つ　の　ま　ま　ま　ふ　縁　し　て　ま　は
ど　ま　ま　ま　儒　仏　の　縁　い　神　ま　く　の　ま　や

第六軍陣の時人間の体
いつまで老功のまういい合戦は吉日良辰とまぬ事
ましあるべきわざ神まに吉日良辰をわざ敵の
ものもみ吉日良辰をはせみ方角をとり月のんとす
まもで山河江海よりあぶもまもせいまをづまの
事まで敵ものもんるまもりて祇の縁まいに用わず
日ばつまと千合まを地のはたすは勝負わりみ
くまもまは吉日いうあず紙まんとまず引ひとはや
祝儀まんにはくせまに民つまはいは風乃使まくは
はやいひ次のまくまるまとまてまかうつはん内甲と
めあけは儀と迎ばし

評曰わざまのに吉日良辰い敵のまあまも吉日良

原也とつもの一つ物ごとそなつて性に日いゆめは
りうぶんとつの味方乃也日ゆ味方こと原破
つくゆゝはゝ敵のゝ大利日ゆゝずや敵の吉日
ハ味方の也日。味方の吉日ハ敵の凶日。運ハ天つ
縁屋ハけの数よりゝ敵方の軍を見まゝゝ
らんとゝ和勝乃二味いゝゆゝよ利あり他の利ハ
人の利よりゝずとあるとゝや方角をとりゆの日を
まづ物見とつゝて敵乃ゝとゝ
ゝゝゝ自ゝゝ
次日十合ゝ物乃ひ
破ゝゝ婚蜜金ゝず
ゝ敵ゝゝ入ゝ

とゝゝも物ゝ成ハ一陣乃ゝゝと二陣よりゝて
ゝゝゝゝゝゝ二陣ハゝゝゝゝ逃ゝゝ
敵よりつゝゝゝ和勝ゝゝて
ゝ重ハゝゝゝ
ゝて乱軍ゝゝ利ゝ
ゝゝ口伝ゝゝ
中也ゝゝ
次日敵よゝゝゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

古屋そハのやうなるてうちんを拵
判をしみ付をかゝ四つ角の命と名付也
つぎもとゝ角の方の○をとゝろの色つまりして
勢ゆゑ有もとりもなほ陽をくりつくめんとせ
しをとゝろうれ方ぐや勢をもとゝ敵
とゝ角ゆゑ有とゝぞろうて居もぐ刀よりなほ
て遠つゝあわぐゝ居さかゝ之なり只くゝ成
つゝくはさぐずる愛乃光はとゝしてうゝ
めなりつくゆつゝるもぐゝ之はゝ合よ内
甲よ保を拵ゝ年敵ゝくゆるゝりゝわくゝを
ろ本ゝゝふもくゝ内甲とゝもぐゝ保とゝいゝりく
ゝ揃よのりゝ自ゝ合中よ年ゝりゆつ内ゝ

ゆりゝわぐ長年ゝゝゝ歩ゝ蓋とゝつゝゝ
猛年ゝの三ゝゝゝハ石垂ゝゝよゝゝわゝ
内ぐゝゝ操ゝゝぐ長ゝ歩ゝゝろゝゝわゝ
ゝゝひゝゝゝゝわゝゝゝもぐゝ死ゝぐゝゝ也
ゝて軍よハ死ゝゝ人ゝゝゝハ生ゝつゝゝゝ
のハゝゝゝゝよ死ゝゝゝ也ゝゝゝ大軍よゝゝ
てゝ死ゝゝゝ陣ゝゝゝりて命ゝゝゝゝして
敵ゝゝぐ内ゝりゝ口ゝゝゝゝぐ

第七書籍乃義理をわくゝゝゝゝ
ひゝゝゝゝのゝゝハ学ゝゝゝゝゝゝゝ年
ゝすゝゝゝゝ師匠ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝて古ゝゝゝ釈ゝゝ也ゝゝゝ本の学業

さぐりあるくのついきちは呼つんを教授のらよ
きのくつるる名利を命ずれりて我が釈とろす
半あ人やをでを大章楽羊みいるしへちひやゼ
えわで釈とふ釈人まとゆやとらきびして釈と
毛ろうして釈新の半坂ー釈新とら兄弟ろん
下ろゆやこみ半欲只一まろうみらづくて大ゆる
つやきりとゆわりうつきりとうわで音世み音ん
ハとのきにとうぐんのとゆみとをゆすゆんと云
説と用いてハ信ろうんとうやーきめそず
冒業のんハとりゆんとうやーきかずゆんのんと
ゆーとゆんとつやーとそびわるいまとうをあ
りあるんどいのらくして我きを

ろりれとあふみあみこ佛をひとすふよ釈とりの念
仏とろんとんとふまでナあめ逆人の悪人も安楽浄土へ
往生ゆとくつゆく結縁ろんとろうまふやうは
ゆゆくせろゆるんゆゆうとうを釈とも報言ー人ろみを
ゆろとつー。懺悔びけそんをゆうを一ひきの
大ゆ何でいくゆ地ろ新とえうやとりゆりくの
まろう拾ぐも何ろてもえけゆんとらたけまを
都ゆとろぐつくめろ地ろとをもの泣く根本師匠
一人くろるりまてするろ中でみろをそろんとふ云
海ろろとわで蠅み雑毛ゆつくろゆてわゆとつゆ一日
よみ里とろゆろ馬ろ毛ろりつとうぐのろを
りゆとろぐつく手のあゆまりて一日よみとろ

[illegible]

評曰大義[illegible]親[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

釈曰[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又觀彼男ハ劫初よりこのかた人ハ國をこゝ
ひとつの穀を一百八千人とうゑうり内典外典
ゝゝに人民ゝゝ生ぜしめ一切でう
くるべきと書典ハ人民の業地を所ゝ西ようくゝ
めけ生で業報ぶにのとゝひ毋ゝ山ようつゝて
極月よりきゝゝ生ゝゝりとゝや保元めゝゝりかけを
鉢手ゝして落代ハいまゝめゝゝ業羽ハ教をゝ
臣法ハ立所ゝんゝの惡西ゝゝ生ゝ地のひゞ
ゝふゝゝゝりゝくゝりゝゝ形く業羽臣法ハ冥罰ゝゝる
位報ゝゝふゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とぐ所とつて手觀絶乃紙をもつてぐるぐる
さりあげくるを細くしまいの毛の葉はさもわ
ゑ尺鐵梅してのちみりのまゝよ邪見不仁を
行ふ人のものもうゝまゝとらず手傷よみて
ず深重と人此仰せる毒ハ十五日迄もまちなほと
ゝりて蚊乃足をもく行ハ一念十念
もゝらびうゝこやそて手を乃縣名をとをゝゝる
あれとゝそのゝゝひくれ世つゝ邪毒乃
ゝゝぐゝ毒つゝりそゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ばめすゝ成もいゝゝ新を成もゝゝをゝゝ念仏
此人ゝゝゝゝゝ
次ゝゝゝゝ吹迄ゝゝゝゝ三年此やゝひゝハ

七年此世をのゝゝゝよゝゝいんぐゝ行ゝゝ吹をゝ
里乃ゝ暑ゝとゝゝゝ
角八元乃ゝゝてゝゝゝ
ゝゝ孫生此世家ゝゝゝ元此ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ生ゝゝとゝゝ孫新冊ゝゝゝゝゝゝゝ
孫ゝ桜ゝゝぐゝゝゝゝゝ孫ゝゝゝゝゝ
ゝゝ富業乃人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
富業此人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ世人の元ハハと異ゝゝゝゝ用乃元車よて
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

評曰六根をのくはたらきとは仮りとなつて手足と
なりぐへほうふあいくつをり佛書うんをとえづく
きをつぐ舌乃至短長広狭とあーつよごとくそれ
をの〳〵内よりおのを所ゆへ時ハたらかずかはみぐりも也
とく説法をじそれぐにみをゆうつうかす
所〳〵今をそのをくゆをくぼをそじきわぐかの
言根をのをぶらを面をいををぶんけ内よりおのれ
ど言根かはみぐりをのうを手いつよをををとわぐ
目にくを耳ハ見とをづくをはをんとかをぐ鼻と
をくはををしつ〳〵独をて力ハくのつをひををわぐん
乃どをつをくをみ力ハをををゆをりぶ書をを面をを
をのををきをつををて面をとををすをやうをとをつ

ゆををれくを死をををとをつを機をとをづくをををつぐ
門戸ハ恒ハかぐをををみ答ををかつをををこれ
と機をををづく恒ハををををて門戸ハひをきを刃ハをを
をり答をををりて象ハをぐかりをくををををを内をり
みぐりをひをくをぶみぐをををを

かのよのうしはるとてうらうらゆきまもとかりうそうて
人ゑとりのやまち郭をとうとうあこ二ゑもつくめの
六位乃中よりいにろものこ位よをのくはくて
しみいまし山ゝ一言をでよりおわりおわりで驚る
し遊でくうなうりこ子色こどすづくあ成も
らひ哀成ゑこもひわくくこ位をつしみ
ゆくしもづ

第十わろ人ゑ生乃能ゑよ吳見乃半
しうゑ人急ゑくくて来りてう色づよ吳見を
ふ海いかりて位乃位ようもくや郭見ふ位を
くくにちよとあざくくふそわづ乃ゑおよやゝ聞し
ちやいまんかちゑづくくそわうへれえハひくつよ

祇とあざけるとあ位ゑうらくくわのへ地へめ
よしうつくゑくくそで祇も位わゝへ地へを見ことをひ
わくくわそへのゆゝやくくいつのくうせゞやとうくへて四を
方式位吳見わづくくあすれとも今ゑ位ゑをひて
一ゝか手くでをゆくゆゝくくゆゝ祇位のとうくくゆ
位のゑくよくゝやト藤乃くと第よ祇ゑ分のくくと紀
とゆゝ三くびくりこふゑゑ分ゝをゆずくくゑ位へん
とくふゑ位へくくくくくわで今くゑ方のくずくくくくゑよ
ゑつくくわくゑ海よゆうくゝ刀ゑきづくくくくずうくる
くくはよゝひいうくくゝ半ゝみくくゑ分宮乃ゑくをいゑ冨
くくえ乃くゑもくも町へ人よ鈴ゝ小隠勤ゑるゆひくらも
くくまゝみゑ色乃くひくこづくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この侍とぐまりゆつとりいづて亀尾と合きんすれば
うそくうちんさあらんで何ぞ為をと破鍋もんやう宮の
新宅をみ為つるひこづむらーとつりそくくるの列し
つくそよ後宰人とありてもりはうさ迫母新新しそて
もつりづや熟雑と名あつるうみもわくずあるくわせ成亀
ふ宗くくまりのーあ面とるみ猪そくくそうたくうあ母の
くくべくくああくきうあるくと人公宮乃あくーあ鍋やた
宝田氏右衛つあくじ母ゑ毎み鍋やた迫母みくくあ弦
あよ道地乃つくーあく義母乃ゑもぞ厚く礼とた氏
えて行ぞーぞおくくあに系成もあくわくくる式乃くを也
そくあくーー妻あくの不面ふくくせくを彩宮力幷と
ゆもんじ伊ゑくわん壱名乃くしくさ枕ハ小神袋

あくくはぞくくあ枕あくーあくを也九書ニ伏乃あくくさ日ハ
くくじくとるくを也くくふくくくを氏源ーあくを也祇母の考ゑ
宮氏つくりあくくわくくりそあくーくづーー考のくくくくみ
ゆゑくとニくくらくくくゆゑ面ぞゑよ母書みやくひあくくを
ーー張くくら拓母の宮乃きくくえ拓ゑ宮の命とくくりちを時
ひ宮乃あくぞニ人ゆのぞーー伊ぞくくくくくくくくも
ぞ也くくくくくーくくを也乃町人をくくを面よくゆくきくを
あくくも町ゆあひ宮ゆくれぞくくを人とあぞあくやくくひ
衣服ーやくゆくくくくくくくくくくくくくくを人也くくを
也ゆゑくちぞれもくり切あ也ばわくくを人くくゆーみ宮て氏
金張財賞くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくを
あくぞーを也ぞくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくを

そうわうう侯英とうひうつよちうそうる侯雄とついかうう
ひ創やみわうどとけつて町人の英雄とつそんちうく感じ
わつくそんーどて一すう胸中よりわとそうそなよばよ
も字ひうひ人の祖孫せしなるして きうう也そしてそ
同気相求むうり頂うるうる私金おちようづめども拾ちず
白赤易つそずや遠文三千地軸こう人金おみ形ありう
於門弟ちうう乃ちう貴いはかうもういはよびちうーうる
このうう山厚亜侯人肺よ拾じ義侠清泛ーて拾と
ちりあどつんちうわで恒河乃海ちどうもちやうに
弟侯ちつく書せんちちうわで硬のすのいち海を平
陽ちぬてーー山厚亜と報せんと称うるすまま死日流物の
ちうーありはうへうく拾るのつうう人（義貞乃巨海と

ちうりはうあう書いつうく意也とのつく祝ちう亜
義あうう侯ちうく也ちうせよとうわうえうけうちを
ちどちうう人日ゆしていい釈乾化人偏ちうう毋也やりひ
と拾ーゆをちうせ拾ちあうちうはちうくいちうちうちうや
ーちう侯ちうず立ちう乃礼とせどんいうのちちうどわで
ちうんせのちうう侯ちちうどわどうわうちうつくうこと寵ちうう時ちう
ちうくちくちうわどうちうつくうちうのちどうちうのちちうつり
ちうーーう何ぞ立ちうひうちどむーいうんや拾ちうう礼大立
ちうちや拾ちうく亜ハちあうよちうーちうつーう義ちうはち
海ちうどうのやまりをちうくうちうやは海ちうんちうちうず
せいたう青衛海をちうんちう侯

評曰山書乃能ちん山姫事侯ちうづう演てその憤

とちくめんとすそわるうつく就志い地むで
の知ちろよ所ぐどちつうて龍い仁義と
海りを蛇ちうて義文ありと書うう半ん
ぬぐ詩志とん昇よて潛龍乃つちとて板の
潛詩ろく地中はうれちむろのちろ海い地
むでよちく地ちてびを詩ろ形ろよ
のがんとちふちのぐい地むでぬちう不よ
つぐとふ為ありうみ氏ひく半はん人のぐ
はたのくやしてうべうわくやみ義龍
い龍乃すようぐりみ氏乃難みとめ半
ぐうえ知ぐちう詩の意詩地えわぐ昇よ云不乃
詩乃半い人ち此書乃つようのぐちろう

陳勝とふすのつり田氏そうやしきがわまり
はうちぐるくやすみみついくに田はれ富ま
うのんうちうこれ辛苦とぐ云まぐとう
のうち半農人どもいうう海ち富ま
のう半つんとうくちうわうひうわで陳勝が田
めいい遷ありつうぐう時詩乃つぐとうんと
ううりぐちもかえいとぎりまわぐとてび
ねる詩乃ちるうのりしうんとたうちうとで
うまりうれ時雁ハううくちびくち虐をりもり
ちう山乃墨ちうう巨海乃ちに氏ちのぐうのつぐ
ちう乃る半遷ちぐめのちに有よぐ云氏階詩
乃地ち難ちおすに海ちふわ地る怪乃新ち

ちゝこうでゝもはゝ氏ゆゑく應說とゝのりをしたし
而氏をゝ〜ゝうるのゝ〜ゝはゝゝをゝひあるを他中ゝう
ひゝゝりてはゝとゝまゝつゝゝ〜他しゝでゝうゝゝあゝ
はゝゝ〜ゝりはゝ書ゝ他ゝ氏ゝはゝまゝつゝゝ〜く
ゝゝ〜ゝゝゝや
ゝゝゝ亟ゝゝはゝゝ敵ゝ〜ゝはゝゝをゝあゝ他ゝ月ゝゝゝ
はゝつゝゝをゝゝ〜ゝゝゝ

[illegible]
人に勝るあるをとゝぶらひとゝもに人まさるゝ人
はいなくせん伯乃はいかゝ者をかはしてゝ[illegible]
古乃ゝゝとりて弟古乃奥を弟せゝ[illegible]
ゝゝりゝんゝゝ[illegible]人今てゝひせはゝんとゝん
ゝゝゝゝゝ伯おゝゝゝ[illegible]
伯ゝ宿に亨を祖孫せゝ伯ゝゝゝゝゝ
あゝゝゝゝ英雄ゝりゝゝゝゝ書ゝゝゝゝ
ゝゝ伯乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝりゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
に書に飛ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

ちんぐうこうすきえれぬ
わくこそ所うてんとこ
ろやこのもあつかずえ
同まもみこぶこもこ
もこわずそこもわず
ゆくこつで元来こ時
人ものひ人ゐもかうて
こて西うかあご山門
只今をへ人ちんぐ
こつあわこつくこ
いくれこつでこ
こもこくこまこ

ちうこもけずこもわずゆこもこわずこて元
来あこゆこつで腰中此ぬまりてはこある
ものこてくこつてなけ
詩曰ゆここちんうこ
こあうこあづひこ
こるひ新く京人香高
世いこつすみ新こ
所ちうづのれ西ー
宣和帝位つ地よ
こ時うの新つ
こうこ
こつ人じ新こ
こつこれこ香高

[illegible]

第十二老母は孝あり感じ来る事

むかし武刑部の御系とつたふる所の格式[illegible]
[illegible]

[illegible]

詩曰[illegible]

[illegible]

唐家乃せるごろうて老幕子黄山谷をまつて
て書借るもつるすとくろ粉千人はもぞ次ぶくんや
年卿ろづ物ろかる国はもむーうりこめくさ至者あう
人つづうあん呂一年とろくち者こぢめぐし
めるひさ人ゆ氏ちひて つゆんさのおそわぐどもあるは者
ひ乃弾とつろうもあり ろうしい一燭海とれ者ん
ゆ重ぐも姑徒ともぐろ れのあうこはろもぐくき
くるもろ者ひ乃粉はゆず老母と負て猪ろろき
ろれぐそ山ア年のうゆ感せんや山書
乃ゆ氏地のゆはくきろ ろ世ろ年とてみろうぐ
はこ年氏感せぐろれりぐさをぽも徳てゆの人れ
者氏姑徒と者ひきりむぜちくぐ山書ようれろ乃

者ひ乃年ろ山ゆるちすべき氏者あう人と感じ
ゆぐーぐちいめんとも しーんずとろわーいまんど
しゆりぐろもあき年はゆわぐ今ちつる曲ゆ
年十三ろとろ氏ちろぐむぐさんゆの年
むー老功乃人のゆぐろりはゆ山ま遠ってちのし
氏ろるとろはゆむろひん河遠ゆ乃ろどもうまく通
ろ年と者ろけ者ろろ千人はあろ人ろうぶ
ゆーろちゆろもゆろ者ゆそて氏ゆどて
ゆろゆくろ氏ろのくゆ世姑ぐろぐさやろいまづむぶろう
敵ろるもむろぐ後乃ゆろ人いろきのろて後ま人と
敵ろゆすくろるとろ氏ろやろゆちゆ氏ぐわぐまて氏
まろりぐはーゆるゆはるろ者ろとろけてろぐ後

長刀をとりもつて出しかいつるとりつれいかの
ものをとりてふるわるとて敵と進むく
ほうこみはゆてとてんとりかいはげそありうとひ
つめてとくくろもあんばやとちつるとちうとい
とりもとるるわるとるあもそとうとまづはげ
とるんとのとのくとうづきつづせとうのく
てとくはりやあくくとちとをとたとうとて
とをとくきんとうとつやまちあくあてとくを
とくとくとの半ハ百のくんはをぐんとう罰のあ孫
ばあぐくとるの酒ハとくれ軍はとんぐはをの半一
酒焼とるはほうくと吟味ありぐとい
評曰とるはゆは科のあはをぐとい

わるのをめとをいるとりんぐ
いゆくうあるわてとを遅とうををとるを
あぐんととあはハ階のを種まぐを敵のを花長力う
みをているとわくくうとをゆをとあるひハくと
うとをゆはずむあくはりとをていわぐとをのくを
うぐくうはやうあるとてをのうれとうとあるを
ハうとぐくをやりをすぐ強とうをとをあん
はとうてやくうるとををあのうはハ遅をあをを
きとうどうやをとうハあるはぐをわぐをあるぐし
のくをのうをのくをのはみをくとをくを形をあるど
はとあうををはをとてをとわてハくうくん半をををぐ

あひんなり近世はいそれのごまるとあるとうきんはき
ゆうせんやみくるとこいわゆがこれうちて近世はい
わゆこうぐるそあるびゆ近世ものあるとうきうんはき
ゆうびきこまうの細辛こうの別こうゆ一椒よ
うんとゆりそんゆうゆうすはよりてゆうゆうらひ
こ糸ゆうひこうゆのるくいゆあるゆ

第十四　虎ハ蝮と辛くもつこ中

むしこえ人ゆいるいこゆこてハ蝮えあるゆ
壁裏論　こふ地のかるうゆるこゆるこんば
威ゆるずこみくくりゆ威えこあるゆくこよ
まゆこえハ虎肉のこハ犬ありこ虎と犬ことこのり
あこするゆ虎犬とゆすくくうゆ食ゆこゆ地ここゆ細ハ

虎ハ虎ゆるゆ所と牙とのこゆ所ありこゆゆ
ゆこすけこ虎ありこゆ所と牙とこ引あこてこ
所こ牙こ所犬こゆけくこ虎こゆくこのゆ犬こゆ
くこゆくこゆ食ゆこゆ所こゆ所と牙こ虎このゆ
威えこゆのゆ但し威えもあるゆこ細ハゆ
ゆんこゆゆゆ虎ゆ所と牙こゆくこゆ用ゆこゆ地
こもあるゆこゆのゆゆこゆ牛のゆこゆ引ゆこゆ
ゆこ細ゆりこゆて用ゆこゆまゆゆ茅ゆのこ人
のこゆゆゆゆゆ茅ゆ地こ細ゆこゆこゆこゆ
こゆみゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆこゆ細ゆりこゆるゆ
こゆゆ馬ゆ所のゆゆ牛細ゆりこゆ細ハゆゆ自由ゆ
ず象の形ゆるゆ牛こゆこゆ地こゆみこゆゆ

食すの用ゐをしめづることはなはだ感ぜんがごとき半
ありそれゆゑ神はやがて行をれらまことにかなうて八部
異類いとなみ人間をあるべき物をあるべく
陽五八國亡破滅をもて兩とも亡ぶの慎あるべ
しとぞ

評曰論語乃ことばに利して害をよく感ある人をし
とをかせり但し感とふものいとれ虎八爪牙のく
地を害するものゝ形ゆゑ八わざわざの物き
ものハ人をそのゆゑ國をすぼめることをはるあり
まぐ利にあらずまた辛しきはいとものゝ感ばり
乃感とをハ人へ出されて服しもつぶとをとふ
ものゝ服をわざ行人服しあるを

ゝぶ服をすて是猛知ゆゑに感ばかりの
感ゝ行ます行人をのづゝ出りもゝ
服してそむゝぶこと出氏森とゝぶゝ氏
乃速をゆゑのひみぶりよひぶ牛ゝ行ゝ雨ゝ〇八森
ハをのづゝこゝ牛ハあり虎乃牛鮮ハ氏ゝあり
そ乃氏下ハ爪牙あり爪牙ハ氏ゝ利あり虎より虎ハ虎より
虎ハ氏ハ爪牙をたよつゝ氏と
ゝのゝゝ人のゝぶまゝよつもゝゝ八乃用ゆゝ氏
氏ハ氏ハ出ゝ氏ハ氏ゝ氏ハ氏ゝ氏ゝて速ゝゝ勢つよし
こゝ乃牛は感ゆゝ氏ゆゝ人ゝゝぶい服してゝ
ずゝ出ゝて國ゝゝしぶゝ氏ゝゝ氏ゝゝ
ゝゝは感乃ゝ氏ゝゝ氏ゝ牛ゝ

ゆそれゆしとおもはるゝて人しつゝぐゐをとゝ感と
くろぶもんや漆をゆるして人の服をゆると感とくろぶく人
とそぐまと感とゐつるぶるゝゆるゐ面ゝ面ゆ宮代
わるゐゐゐみるゐゐ竹ゐるぶのゐゐゐゐゐゐの
実しゐるゐゐゐみるゐ行ゐ金石ゐる代ゐゐゐ宮子
ゐの面ゐゐゐ石漆ゆゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

ものをいふ紀乃うつくし肩をひとめしてわ
いまくうつくしと親はすすめ乃猫はいとのべ
ゐる乃紀ぶさいもの乃うづきをふやしてゐ
ぜてそ元の白しも高をわてゐるゐ風の毛柳
をうつくしとおもふおあるへこの乃ようなて山乃
ふくゐあぜ毛ぜ安ぶうとはくこやて
しものもいて海ざ高はいてきゐうて紙乃あ、ひとく毛
ゐふゐあくゐ形屋ゐるゐ乃ゐ海ひゐぜ毛毛山
さ紙毛乃ひゐゐ山ゐ乃家屋のゐを
をゐてく。いもうすづ紙ゐ目を敷めゐわぜひゐを
わてゐゐゐぜ。ぜ山ぜ乃ゐ風乃ゐ浪はゐ海ゐをゐく
ゐ毛ゐ乃ゐ海ゐ毛ゐ毛ゐ毛

そうでこうていくくみのうえにあいたものわづこうのうえ
ゑ[illegible]んしてくわのしんわづくへうみくこそ
らくくみこのうえれあいたものみのうえうえと云ゑ
してくうくいつしけもつでくもうせぐぐもうこゆぐ[illegible]
とうこうもの弓矢こうきいつゆきくこ[illegible]へこさ半也

第十六西明寺殿最勝園寺殿御行の事

ひくうこうくいつのいたい極念乃あ明寺時頼の最勝園寺員
時の日本国をひとうは俗めのうわて弓矢めうゆうと
そうじのひきうに重源乃とうつくこ毛と吹て痲と成め
人此濫觴とそうでひん半盃のくわざきうけうろ
物のかわりいでくゆをいつくんのくいこうとは名云名物
乃はゆとゆきこうこうかうこてすうこ泡とくみ云と

そうのうてそくひとゆすゆきのきこそうこうて毛と
吹て弓矢乃痲とのくひこりのうこうみち生へくて
陸奥わう乗るも巡狩しのふみ孔ものこうとあうう也
のふこわでつのくへい民乃うきくへとものくうんくあい国くへ
人とつくこれきのこうかうこいとたとうひ生代のすこれば
こ使乃人こうぐめくこ巡ちくこ乗つくこの別ものこ人は
て民のこうすとこうも家こうひ乗つくこ巡巡乗乗世湯記乃弓矢時いくへ欲
うくこ巡巡乗乗とくしこずもこをうすわて秋利こう利
うんとうのうこうこ決こうこうこ[illegible]こ[illegible]こてい人此言亜乃陸奥
きここうのもこわくぐこ[illegible]こうひ乃人も生亜人長七亜人
かくこ出使よつくひ人国こ[illegible]日本のくこ例のぐこ
うくこ此ゆつぐこ出使のくこへいこくくのあこうこ国此

進物をいろ〳〵あつらひ持ぐうらそうもすべてと仕く
毒くみ毒逆とうもうもうも

[illegible]

評曰須令入執權正官信下相模寺平氏時頼入道最
明寺実心相模寺貞時入道最勝院ゆるせん宗濱これ

あるいは両修めれ神祭をとりこれ
ばかりして山日吉一洲とかやしづめるひ
ふ法華経を命ずとう般若
とうりてこれをしづめ崇神天皇代に
はじめて宮を乃将軍として人代猶亜と治
らまつより将軍とうりて人代猶亜と治
ち年よりうりてもあれ
まつそ代国司出羽七左一国三年乃任をもそて形よ
ゆり位階をもくみまつこれ法国のもとに百民代繁栄
うまつへとくめんとあり中代よりつく国司そ
国を拝領しる縁よりつく御ことを乃ゆうあひ
敬ふつく私とうりつへ国乃ふ民百姓とうりあるい

國司ハ政をとる所の民部の丞と申
さるゝ下の者をとらせ國せば郡司なるべしとて地代掠
とり程をまげて沈そ地を取事をわく
佐をとらせ地頭邪ぶとうめを入うめて狩の使と
号して廉恥の人を佐のようぐ一所に出逢ものと
その國司の地頭なり下司をのく邪科よりゆるされ
より又狩の使も國司もかゝる非をゆるすの所ハ京都
ヨりて振舞廉下へ出逢ものとゝ出逢の海ら
かひハ廉下ゆりてゆられ佐をめ中まして理地を匹し
國司使下司同代ゆるゆ邪ゆわるゆれゆり宮ゆ
醍醐村上帝の世ハ國ゆゆ主元政事をゆるゆ佐
ゆず佐臣ゆゆ事もゆゆゆくして世ハ

見えゆ代ゆゆゆず十の所つゆれゆゆゆず代ゆ
民ゆゆ主人の代ゆゆ國司下司ゆゆ多ゆゆ
ゆゆゆ

形をへんずと仰せられたり平等の無上菩提
をおこすは菩薩の行なり菩薩は衆生をあはれ
むこと母の子をいとおしむがごとくなり
故仏ましましし天下国家をたもちさかりなりし時
人々をあはれみたもうの精力をもつて罪
をきびしくせんこと仏法をそしり罪
はなはだ重し善悪罪ずるは牛を人は行の人は
みちをうしなうず黄牛をいたぶるがごとし
罪のはなはだ重き悪を犯すこと有り
もろもろの悪人懲をもはげしくせんこと罪
はなはだ重し行者人をすくうず罪のそしりは
なぶるは忠をすすめ善法をそしりゆるまへ善法

中をそしりすすめそしり民の四重と邪智との二
わり四智のうちはなはだ重しあるべきを
仰せられをはりの神仏の冥加をはなれ
ずんば人の本和を歌とをもへるべし仏神
の邪智のうちは実は仏法をそしり仏
ぐうの中にもしるべし仏神を敬ふこころ
らの心を形をとゝのへ人をたすけ
わづらはすは仏をたすけ
ちくるうは四智の民なりして邪智のもの
新しき邪人をうしなうべしくの書の
手に邪智のこゝろぐ所の
わづらひて仏神をそしり

いくんや地頭代官をつかはして年貢をとらせ給ふ人
やそはもみとりあり地頭代官もしたがへ国
うちうちうて利潤貪欲をもとゝ邪欲を専とす
ゆゑうみ遠流物部とものつくを専とつくへ百長百
姓人毒を流部し楚うの山ともつて年貢課役
とのゝごとくにをこなうるを専とつくめをうりてをれ
ば命をとゝ命をとゝ命をとゝ命をとゝ命
で此半をそのをこなうをのをこなうをつくれ
ば命をとゝ命をとゝ命をとゝ命をとゝ命
働とゆゑうのをうをうをうをうをうをうを邪欲
を犯地頭をうをうをうをうをうをうを
後世の人とをうをうをうをうをうを

それ人とおりの文をまなびうの氏をつくる才智をつくして
たゝ氏をうをのみ歌をうをくをうをうをうして和氏をうをのみ歌
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
の人をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
いれ人偏をうをうをうをうをうをうをうをうをうを
たゝ氏をうをうを歌をうをうをうをうをうをうをうを
をうをうを君人をうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうを和歌をうを歌をうをうを
をうをうを何の君をうを人君をうをうをうをうを
をうを智をうをうをうをうをうを邪魔をうをうを

ゆとうたのかみは けのつぐ ゐるを一百姓のわつさうい
物ゝらに成ゆるさんと成ゆるして新田好
ゆゝしきこと成ゆるの国郡の邪魔ありとたゝんの縁
ゆゑ八伝世ゝ者ゝ
しもゝうへ人ゝも邪あつにより伝来ゝ
ゆひそゝして上に成わるゝとゝ
垂れ牧は万世万年繁昌万年くらくゝと思て
ゆゝ和来ゆゝ新田人ゝう新田ゝ
伝来牧はのゝ成ゆるひゝ
とゆゝれゝ八郷わゝ人ゝ賄とゝゆゝひゝ伝人ゝ
新田人ゝ来わゝゝ
郡とゝゆゝて ひゝゝ

わゝゝ郡とゝゆゝ八郷ゝ伝人ゝ
ゆゝ成ゆゝ牧はのゝ
ゝゝゝよゝゝ
わゝゝ郡金ゝ伝人ゝ
ゝ成ゆゝゝ
わゝゝ伝人ゝ
ゆゝゝ成ゆゝ
牧ゝゝ
郡ゝ成ゆゝ
郡ゝゝ伝人ゝ
ゝゝゝ時ゝ
郡ゝゝ
と評定ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひさいうやうは被高して二階堂一人めぐりてひそ
うはうらをかつて徳金を要ひわく六千よりをを
降ひしまつ半ら三千年ばかり　ちぐ　不ぐ　代　乃
ぬきをかと云る　わさんしもの地々ほしやはく山猟門
み法華乃舞曲邪　代　まと　ちるこ　めて徳金ふ
うりはつまをを法華の西人三百四十年人とや
時新乃りはつて死ら人乃ゆみりうらちて
法人ゆうびはつて法華代西人とは家ま
ちるこ乃罪をゆうのひみき西西代ものの代で
めものがせく言氏はつて　まーうば徳金乃ま彩
法乃ふうこし法華の武士百姓百年ゆうて
びのまを氏ひきみ邪曲乃ま彩法人とをうものを

はたとも乃はつのやうを掘こてんぐーをはうあを
年代世ゆ故にうを
ゆて法華西西ようはきそれを
みま彩法人所不ぐ代をゆうのひ氏和をてこ
まして法華徳金氏ゆうものはうくあると
はものとをこの和一千回四一人二人あてよ西回の
修彩ちる仕ゆて和れを回ようして法華のくく
森和ぐも代ぐ降ぐわも弱ぐせびまり
所不目代以下かを代はをゆうをたれてしみ
くうさわも和年とうあるうはものの回回代ちる
強わ和年つうぶあーきんうつをを回うてハ

その書ゲ[illegible]より合てハ[illegible]ハ[illegible]て[illegible]と
めづらしとぞ[illegible]て[illegible]せ[illegible]ハ[illegible]ゞ[illegible]ハ[illegible]ゞ[illegible]ハ[illegible]
けとつ[illegible]すまの[illegible]の貝代[illegible]ハ[illegible]とのもの便[illegible]
回回乃[illegible]ハ[illegible]づき金銀[illegible]人賄[illegible]
ゞ[illegible]こわ[illegible]て[illegible]ハ非[illegible]を[illegible]て西亜より
ず[illegible]ハ[illegible]ゞ[illegible]れ[illegible]て[illegible]ども[illegible]馬
[illegible]て[illegible]市[illegible]を通り[illegible]人[illegible]ば
[illegible]市民の[illegible]て[illegible]人[illegible]
[illegible]ハ黄[illegible]ハ[illegible]使の[illegible]
[illegible]て[illegible]ハ非[illegible]
[illegible]ハ実[illegible]やまし[illegible]て金銀[illegible]
[illegible]の財[illegible]

評[illegible]乃[illegible]ら[illegible]ハ[illegible]ら[illegible]ハ[illegible]人[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ゞ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
く[illegible]て[illegible]ハ評[illegible]人[illegible]
[illegible]ハ[illegible]頗[illegible]七八[illegible]年の[illegible]
舞[illegible]て[illegible]を[illegible]ハ[illegible]て[illegible]
[illegible]て[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
此[illegible]ハ[illegible]で評[illegible]九人[illegible]
[illegible]乃舞曲評[illegible]の私[illegible]
[illegible]九人ハ配[illegible]て[illegible]

三人貴をそこなひ世をゆるのしく暮らせ
物をなる人神をうしなふ守護地頭浮浪人
同代名百三十餘人その付ぐ〻百餘人その郎乃
物主にまつせくあるひハ不幸とめ〻あるひハ
あ〻一或ハ貴をそこなふ貞時の仰せまもれ改乃よ
をそこなりて今家つる人ハをそびて郎ハ世ゆるの事
わ〻ち明り和よりつ〻ずやこまたかぐあをくあ〻べ事世
のあ〻ひいよ〻こちりよ亟人初まて市民とるやます
ものゆわ〻ん事乃をたるのをたるの人よなづまもよあつ
をあ〻をハつ〻ち市ともちまこまこ下ち乱のひ
あ〻ずやをこそ事代とハやあ〻わ〻改乃をこそ
世ちるかあをわ〻神けうあ分よりをあ分ちて八國

乃ちうをたいつをうをん半諸人ハやまをしてなるをを伝
神をちるの仏法をたるをたるをんも和〻〻ちうをして
相模守高時よ執権職とゆづり陰〻を分ハ和泉
して景勝寺寺家薗をそやまをあをあ
ちを極念仏世の和く法國を修行しあの半
四年まして法をを好四をなるを立百七十八
人ハをあ〻して禅門極念仏をりあの〻くのち
世ちり陰ハ法をゆをを和ゆづりたのんせ猛
をを人ものをるをを地ゆづりたのんせ猛
てのちを猛の〻をと貞時ちをあ〻をりあの
をひを所代人詳宣元をの権をあをを

邪欲をとゝのへ
きりそわぐらんぜいは西氏いまゝむりにこの人をそ
ず罵りしてたゝとつくつゝあををへらまゝとも
吉の世をおりくいは悪をいまゝ世をるを罵をつく
せぐわぐでをゆるをわぐらんぜいはゆるゝ物をて
ゝををつゝむゝをゝをわぐでをゝをゝしををとゝぐ
河をを邪氏をゝをんぐ邪欲のをゝゝく物ゆゝゆゝを
罵ゆゝをゝをわぐで西をを猫西をゝをゝをゝゝとゝや
ゝをゝゝゝ氏吉西をゝの科人をゝをゝをゝゝゝ時氣
の西行西人情見をゝぐゝゝゝゝゝ科人二百
能人をゝをゝをゝゝゝゝゝ

[illegible]氏[illegible]人は[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第十七　最明寺殿

[illegible]

第十八　山中鹿介

[illegible]

そ後この節のことをりて軍法紀しるして矢代和泉
守殿の形ずゝ西こゝ西こゝの相違ゝ西
各別なるをわゞ西代乃こゝ
ゝけるく類ちよひぞまつうゝ人間のこゝ代たるを
ばのこゝ也呼のうゝ百里実ゝ所貴人の浮沉も
ゝの節のこゝくゝぞ

詳曰山中勘兵衛別今川氏を中心年九年代乃也
今川の西老朝比奈泰勝とものつくゝ中つるやゝ
山中節のいくゝわのゝ罰乃ゝてゝ城どり陣
ゝり一切乃軍はゝく猥爛つゝ京師の名所もゝ
也軍配の功ゝゝて武士ゝつく宗義乃ゝゝり
てんゝす東中代諸人あゝゝり沙汰しゝゝ山中

つゝ軍はゝを西ゝ中つゝ不男あり一眼うて
ゝんゝ也ゝの結ゝうゝ中ゝうゝてゝうゝ城どり陣
ゝく猥爛ゝゝりゝてゝ一僕ゝゝゝつまゝ日ゝ
屋言ゝゝすゝ乃ゝ京師乃名所也彩西師
西ゝゝゝ

さて此家よりわく浦孔中出かけるに不男此方の
くさくさふくさくさ海ふ面ぞきたんとて帰対よ加伯わ人
二百人を初これ軍は乃師とあづれくりこ出るを
甲陽八軍。利をとる事さんは初りの出こと十三物
と郡り出面八作列ア石合戦の時作左ヱ門勢也を
海を村と義清ハ勢をりつく信結いくーさんくよ四
ちづくわで甲斐ぐく併利海系横面海中ら乗
こか七百人ハくちくあたるくさくさくさ
出そ日作左ヱ門出軍よ敗ろかと山中勢ハ軍先
とうくくて作左ヱ門ハくさくさ敵の軍勢と当へ向
ちづ山合戦ちくちよ義也とくハ作左ヱ門時分ハ
知ちつめ家と敵の海とくさくさ面山ちすれ

ちる物くと作左ヱ門海ハ敵ハくさくさ半勝とくるもど
稼ちは海也ちて出て弦南出辰乃寺が後の人数
平綿をつちくく敵ハ町中くり初海をくて出わで
ちの人数ハ敵ハ海ハ出ちくくく而ちくくく甲斐ぐ氏綱
久方成りこわで敵軍乃ぐくふりこわで中山四
海中さくくいハくくくくくく敵出初ちく勝ちす
甲利氏をくつちくく敵乃ちち百九十三人をくちくく海
これ出出軍くて方ちりを海ハ山中勢ハ半勝也と
摩利支天ぐくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
而夷の初ちりる今門風ちくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ぐく陸ちくちの初ちくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
半一万三千ちの家ちりこ四二千ちの八半田の家ち

軍中一時の離合り落よの戸ゝて山中道路
くづれ一川中落うて尾乃瀬戸う雷田紙部
をとり山中道路いうち死しもりうち甲陽
ゝゝ人をとりて勘のをとうゝ三ゝ人川紙ハ屋を
うて九年池ゝ山中とうゝ人ら三ゝ沢ゝ行ゝハ
ゝゝ人をとりの明ゝ
任ゝ乃ゝ見ゝ命勝利ハ四ゝの勇ゝ者て紙成
ゝのひのつゝき人とら足ゝ行ゝ谷ゝ中ゝ
戸山乃西遠北白蓮社ゝ謝吳運といまゝわすゝ五
北ゝ谷ゝ海ゝきゝとゝ三ゝ三ゝ海ハ一ゝ
ゝゝ海をゆゝて蓮社ゝへらまゝ行ゝ
吳運をとりて陶淵明
とゝ人ゝのゝ

とりて勝利をとゝ也行ゝ
第十九梁乃宗銭陸ゝと和せ一半
むゝのゝゝ北梁ゝ乃国ゝ乃国ゝ宗銭ゝとゝ
国北境ゝを代官ゝ行ゝ時梁乃里人所成ゝ
今ゝとへゝとゝ北ゝ
とゝりけるゝゝゝゝ北ゝ生ゝ
里ゝとゝ楚国乃里人ゝ
勝ゝとゝわゝて行ゝひゝ梁の所ゝ生ゝ成ゝて
ゝゝゝゝゝゝ梁の里へ出ひへ紙麦を
とゝゝゝゝゝ梁乃里人ゝとゝて
とゝゝゝゝゝゝ楚国乃所成も知てゝとゝ
あゝりゝゝゝ宗銭ゝゝを
ゝゝゝゝゝゝゝゝ楚国の所を

ゆゑて梁の里人とゆうの者ゆうひとうに楚國の里へつ
楚國の九島へ蠻とゆひとをゝめせゝはゝうゝを
ひゝを楚國の九一隅ゝゝ齊ゝり楚國の里人どもは
ゝゝとゆゝて用ゆゝうゝ孤ゆゝれゆゝ厚ゝゝゝ
びうゝゝうゝて則代官人はゝゝゝへきわゞ代方も
ゝゝに感じゝゝうびて則みゝゝうゝんあり帝を
ものゝゝずは感ゝゝく礼義をあつゝゝ此人を和ゆゝ
ゝしく梁の帝へゝゝ此格ようて人以為ゝ
中合ゝと宋弑とゝゝゝゝゝ此ゝゝゝゝ
梁のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝを代官下此里人ゝゝゝ配志
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]すいかつ〜雲霧の民時とゆつり
[illegible]をかりまわぐ〜も玄代濁せうりて人のふ[illegible]
[illegible]ゆづりくかつ[illegible]みをかる
よみをくを人の田[illegible]ぐいとりぐきけすのぞ〜
中朝乃つ〜へいめ異さりつ日中とかぐりて山河に
海宮代濁乃ものの味とつく拉国とをちのい
をぐ〜は三千拉国をみ三千三千国りわるまるを
元亟天皇のけすよ三千より別乃風を死と攘ぐ〜
よりと拉国乃浸国をちまをもを年之し
きを中をわぐへらみ〜国信いを〜ふ初ぐ〜を不
もをを〜やをわはよつく国氣乃らぐひをの初のい
をを〜きを不〜りゆをわり暑初いをぐ〜をつ人三人はり

ゆをて浸をいい国年乃ぐうひ〜初ふ半わるせ
保元乃乱を伝軍げをるを中〜と伝ふのをを
をを浸をりはをり嘉久代災を亀蔦乃不氣をを
ら〜を〜とつくゆりをゆりつ〜ゆ楚とを
国を呉〜ふ国乃浸ゆは安を不ふびてを〜ふ
をの浸ゆは幸のまはりを代安国乃を不〜りを
人代下ふあく幸ふまを〜ひ雲のを〜ふ雲を
を〜ん〜をてゆぐ国乃ふゆりをて安方代やをんぐ
はいをうひを〜ふ安方代百殺お合く〜みわのを
百楚国ぐを乃代官を〜はをりはのつ〜呉ぐ乃百殺を
を〜つを呉ふ代官やつを〜りむひをわれ
をん〜はを〜ふを命を〜ふをを〜れ〜を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人の[illegible]の釈[illegible]人の釈[illegible]中[illegible]
[illegible]七八[illegible]
[illegible]年[illegible]馬[illegible]孔雀[illegible]鉄炮詩
[illegible]七[illegible]の[illegible]
[illegible]右乃[illegible]
[illegible]師匠[illegible]
[illegible]毎日[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]折[illegible]
[illegible]
[illegible]釈[illegible]
[illegible]
[illegible]食物の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]肉[illegible]虚労[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

やがらし軍はみなそのかのひぐして穢なもせそれは
とりて人のゆやみのかたはらにあるもの
悪れ乃情いそるもぐりの畏ものはなかりければ
祝ものしてわづかの所わりまとの祈りとの物をうれ
ぐる人のうをを半分気嫌よくいひくいひくしあるもの
あわせもまつく者をとりとりの智をうとりて
らまぐしてそのづくたるよりてうりて流ものかたを
雲嫌の新ありてあるとうそ生れつきいつくあるを
ばらうそうつぐ大豆ゆをとぐはわうそうの二文を
乃ひき概をうそうゆづくれものいふりどをしても
はをもむう半のうらずゆりを智をとてうをうもいかまとあい
もいかゆ乃分乃者とをれつうそうばうそいあるまぐ

あがをうそうぐわいかくくのそのせばせ乃いうぐ
らものはありうくはをうそわぐをうきくうよも明ふあり
花ふうつうく事いかありうとうでる能ぐわぐ明ずず
あい嫌ありうとうでるをぐわぐあうくあり所
とうりうあ毎をぐをあるをはくはくくうかうをとを
つぐかいこをうのうをあうゆづくあうとうりのあり
うあ毎をうではくうをうを所をうゆをうもうそ共をうむ
きてうその也ぐかいうづくわうあうをうとうあうあり
うを所わりうきくはをうをうをうあ毎乃あやをうも師を
つけてうそのうをうをうそうを共師をうくうのゆうのやうあり
師通乃所をうを通祝をうくう師をうびまたうをうを
半のうをうゆうあいこをうをのうぐ能ぐかうずやかか

わるくうまくはなをくいたるを飽までくうひ。あるゝ之陰を
しかるゝ遠り特書川特物奥酒又はつとうし、
一期のはしざうの言葉まは田まくらゆきき花は
てかゝ之ゝ。あぐ海ゝ。はくしんとはわゝ。田甲物やや
あるゝんはるくゆの和性ゝはわりぐゝゝゝゝゝて
ぐあはよぐもたるよくんぐ何ゝぐめぐゝゝゝ人偽ぐあ
ぐひあんへゝ
子供ゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

加藤清正の家臣の内に偏勝乃薬毒を
換裂痛滴乃病よりも麻呂は勝れたる
て其新世よりの事なれども生を殺して
仏神よりゆくの釈乃いきの仏神あるべきなり
ゆやそらよりゆくずや
之千年づつ以来の之馬芳づつをいかりしとそう
ら酒づつ侍らん其歌国乃時陣中より和とり合
踊より比奥を世一神一名のわらい記録はそぐつう
そそて腸はかゆるとくあはまをとつしに時よりの子
年以来の甲陽乃時より後世神さるよりづまて仏
ら乃之恢保元平治源平盛衰記承久記明徳明魚
の紀小弟文代記甲陽軍鑑信長記を国記その外

書記は馬芳づつをいかりしとそう
世づつ神一ゆかりの之代まを世づつそそ
和より毎づつかんや
子氏わくは生之すはみひとつよりの筆毎やはそぐ
とつすゆかりゆかりて毎をたまのをとをつつの
まれかりゆかりづつ智あるくをまをくはしてつよ
之代とくはをまをわくぐめつかりてゆかりをぐて仕をる
ひはつるゆかりつ之代程毎侯氏い程乃中云晌乃書
とて明遠伊州二程乃程乃毎あり姫よつへて大部
ゆり言よ文乃程晌よりづの神くをつをしず二
人の子氏らかり言はいくをみ代づつをにゆかり
ををの母をの子代をつをを神とくをてみよをを也

ずこれをいまゝ一めいとうてなやまうにはなるこゝ
ろをもつて一生こゝにとゞまりて子としいとめ〳〵ろくあり
ゆりとて二人のこゝろくをさまつゝまつゝまつゝはせまを学
ぶとうとものこゝろとは大儒とゆりくり見い明道先生
はいはゆ先生とこゝにまつて二程子とあるめこゝ
ものゆりてゑうこゝろ儒学はゆりこゝをはせまうんを
くりこゝを母乃いぶゝはゆりこゝを母乃ゆらこゝろ
ゆくこゝろゆこゝろ本ゆしこゝ文章あるこゝろをこゝの
つゞりこゝをゆ